宜力の問題，そして周囲の人々の関心。少しずつ努力を重ねて変えていかねばならないものである。

昨今の，広島大学のスポーツ活動を見ると必ずしも低迷している訳ではない。体育会陸上部出身で現在総合科学部の大学院に在籍されている鶴崎選手のニューヨークマラソンでの大健闘。そして，アメリカンフットボール部の大学地区対抗戦での優勝。全国レベルとまではいかずとも，西日本あるいは中四国での広島大学の健闘は枚挙にいとまがない。全国あるいは世界へ飛び立とうとする萌芽は，この広島大学にも確実に備わっていると思う。

かつて，京都大学がアメフトにおいて日本の王者として君臨したごとく，広島大学にもぜひより高くはばたいてほしい。我々広大スポーツマンの合言葉は『感激を君に，喜びを僕に』である。

まことに拙文ではありますが，最後に今大会関係者の方々への感謝の念と，今後の広島大学の発展を願いまして，実行委員長挨拶とさせていただきます。

念願達成!! 五大学初優勝

――ハンドボール部――

理学部学生　関藤孝之

「広大は中国五大学には優勝できない。」というジンクスができたのはいつからだろうか。確かに僕が一年の時は伏兵島大に優勝をさらわれ，二年の時には山大に負けてしまった。中四国では一部リーグで安定した力を保ち，優勝もしていたが，なぜか中国五大学では勝てなかった。

しかし，広大は今年，そのジンクスを見事打ち破ることができた。そう，広大の五大学初優勝達成である。

今回の大会を振り返ってみると，対山大戦がすべてであったと言ってよいと思う。山大は中四国の一部リーグで毎回広大と優勝を争っているチームである。その他の大学は二部・三部で楽勝といえば楽勝であった。山大との試合は大変な接戦で，今思えばどちらが勝ってもおかしくない試合であった。この試合を広大はなんとかモノにし，そのまま全勝優勝した。あの山大との接戦で勝てたのは地元の利が大きかったと思う。実力は五分であるから，このようなほんのちょっとしたことが勝因になったのではないだろうか。来年からまた他校に遠征するが，今度は他校・地元関係なく勝てるようにがんばりたいと思う。